

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

本院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない患者さんもしくは患者さんの代理人の方は、下記の連絡先までお申し出ください。

1. 研究課題名	食道癌術前化学療法におけるPET-CT集積率変化と病理学的治療評価の相関			
2. 対象患者	以下の期間において、当院でPET-CT検査を行い術前化学療法を受けられた食道癌の方			
3. 対象となる期間	2010年 1月 1日 ~ 2018年 8月 31日			
4. 実施診療科等	腫瘍内科			
5. 研究責任者	氏名	齋藤 絢介	所属	腫瘍内科学講座
6. 共同研究機関 (共同研究機関研究責任者)	なし			
7. 研究の意義	PET-CT検査では点滴で注射した薬剤(18F-FDG:通称FDG)が悪性腫瘍の存在する部位に集まることで腫瘍の存在を把握することができます。FDGのあつまりやすさ(集積度)は腫瘍細胞の増殖速度、悪性度、腫瘍細胞量と相関しており、FDG集積度の変化から治療効果を推測することができます。 PET-CTという非侵襲的な手段で患者さんの術後再発の可能性を予測することができた場合、侵襲的な手術前に、術前抗癌剤治療を継続することや長期的な集学的癌治療の成績向上につながる可能性があげられます。			
8. 研究の目的	術前抗癌剤治療の前後に撮影した悪性腫瘍に集積するFDG値で最も高い値の変化率が術前の抗癌剤治療がどの程度食道癌腫瘍量を減らしたかを病理学的に評価した度合いと相関するかを調べます。			
9. 研究の方法 (使用・提供する資料等および外部に提供する場合の方法等)	当院のPET-CT機器で術前化学療法を行う前後での癌の存在する食道の部位で最もFDGが集積した部位の数値(集積最大値)をそれぞれ収集します。その集積最大値の変化率と実際の食道癌手術検体の病理学的治療効果判定の結果の相関について統計学的に評価します。また切除した手術標本を染色し、治療効果判定以外に集積最大値の変化率と染色の程度の相関について統計学的に評価します。カルテからは性別、年齢、食道癌の局在、FDG集積度、病理医による診断内容、再発の有無、手術後の治療経過について情報を収集します。			
10. 個人情報の保護	データは匿名化(氏名等を削除し、この研究のための識別符号を付与)されます。また、対応表については本院の研究責任者である齋藤 絢介以外アクセスできないパソコン中に保管・管理します。対象者の方より拒否の申し出があった場合は、研究対象から除外しデータを削除致します。ただし、研究結果公表済みの場合は公表済みのデータを修正することはできませんのでご了承ください。			
11. 利益相反に関する状況	研究に関連し、開示すべきCOI関連にある企業はありません。			
12. 連絡先	青森県立中央病院 腫瘍内科 医員 齋藤 絢介			
	電話	017-726-8111	FAX	017-726-8325